

ビーイング・ギドン・クレーメル

ギドン・クレーメル、イグデスマン&ジュー and クレメラータ・バルティカ

BEING GIDON KREMER
GIDON KREMER, IGUESMAN&JOO, AND KREMERATA BALTICA

今度のクレーメルは
シネマミュージックとコメディ!!



笑いと映画音楽で
クレーメルの半生をたどる!?
これって本気??

鬼オクレーメルが現在ヨーロッパを席卷している
コメディアン“イグデスマン&ジュー”を招いて
創り上げた新企画!!

11/5(木)

PM 6:45 開演

愛知県芸術劇場コンサートホール

S:10,000円 A:8,000円 B:6,000円
学生:3,000円 (税込)

主催/中京テレビ放送 FM AICHI

予定曲目

ニーノ・ロータ「B 1/2 (はっかにぶんのいち)」フェリーニ監督作品より
グレン・ミラー「ムーンライト・セレナーデ」
ショスタコーヴィッチ「スケルツォ」
ヨハン・シュトラウス「美しく青きドナウ」
J.S.バッハ〜ピアノソナ「アヴェ・アストール・マリア」(アヴェ・マリア+リベル・タンゴ)
チャップリン「スマイル」、他多数

お問合せ
お申込み 中京テレビ事業 ☎052-957-3333

〒460-8613 名古屋市中区錦3-15-15 CTV錦ビル6F(月~金 AM9:30~PM5:30/土・日・祝日休業)

学生券

ご希望の方は往復ハガキに、希望公演名、公演日時、住所、氏名、年齢、電話番号、学校名、学籍番号を明記の上、
中京テレビ事業「学生券」係までお申込みください。公演の3週間前に抽選の上、お席をお取りできるか否かご連絡致します。
往復ハガキ1枚につき、1公演1名様でお願いします。

●出演者等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。●未就学児童のご入場はご同伴の場合でもお断り致します。

インターネットからでもお申込み頂けます。

<http://cte.jp> 中京テレビ事業

チケットのお求めは

チケットぴあ (Pコード 324-733) 0570-02-9999
ローソンチケット (Lコード 45988) 0570-084-004
愛知芸術文化センタープレイガイド 052-972-0430
e+ (イープラス) <http://eplus.jp> 他

BEING GIDON KREMER

GIDON KREMER, IGUESMAN&JOO, AND KREMERATA BALTICA

天才・鬼才の名をほしいままに、縦横無尽の活躍をしているヴァイオリニスト、ギドン・クレーメル。ある時は現代ロシアの作曲家たち、アルヴォ・ペルト、ソフィア・グバイドゥリーナ、アルフレート・シュニトケらを積極的に紹介しソヴィエト時代に埋もれていた優れた音楽を世界的に認知させ、またある時はアルゼンチン・タンゴの革命児、アストール・ピアソラをクローズアップし、世界的なピアソラ・ブームを作ったり、その才能の広がりには留まることはありません。そんな彼の新しいプロジェクトが「ビーイング・ギドン・クレーメル」です。

世界的に人気を博しているクラシック・コメディの二人組、イグデスマン&जूのパフォーマンスを見たクレーメルが是非に、と共演を申込み、そして実現したのがこのプロジェクトです。クレーメルがバルト三国の精鋭を集めて組織したクレメラータ・バルティカをバックに、ドタバタでナンセンスなコント満載の中にも美しい音楽の数々がちりばめられています。

「ビーイング・ギドン・クレーメル」とは？このタイトルは何を意味しているのか？

クレーメルいわく、「一人の音楽家が学び始めてから成長し、やがてコンクールを受け、落ちることもあれば、優勝するときもある。うまくいけば世界をまたにかけ活躍できることもあれば、演奏会で不評を浴びせられることもある。レコーディングでも高い評価で売れることもあれば、そうでないときもある。そんな浮き沈みの中で、音楽家として自分を維持していくのは大変なことなんだ。私もそういう音楽家の一人として、どうやってギドン・クレーメルとして存在するのか、を少しでもわかっただけでいいなと思ったんだ。」

また、タイトルについては10年前、ミュージック・ビデオの世界で大注目されていたスパイク・ジョーンズの映画初監督作品でアカデミー賞の候補にもなった、「マルコヴィッチの穴」(原題:Being John Malkovich)をもじったものだそうです。主人公の人形師、クレイグが15分だけ俳優ジョン・マルコヴィッチの頭の中に繋がるという不思議な穴を発見する、という何とも変わった映画ですが、この映画を見ることは大きなヒントになるそうです。



PROFILE

ギドン・クレーメル (ヴァイオリン) GIDON KREMER, VN

1947年ラトヴィアのリガ生まれ。4歳からヴァイオリンを始め、16歳で早くも国内の音楽コンクールで優勝した。その後、モスクワ音楽院ではダヴィッド・オイストラフに師事、また、バガニエロ国際コンクールやチャイコフスキー国際コンクールでも優勝を果たす。'75年にはセンセーショナルな西側デビューを飾った。'81年には、ロックンハウス音楽祭の創設、バルト三国の演奏家を集めたクレメラータ・バルティカの結成など旺盛な活動を続ける。

クレーメルは切れ味が鋭く完璧無比なテクニックを持ち、広範なレパートリーをさわめてユニークな楽曲解釈で演奏する。また、旧ソ連の現代作曲家ペルト、シュニトケ、グバイドゥリーナなどを広く世界に知らしめ、一方でアルゼンチン・タンゴのピアソラを取り上げブームを作ったり、近年では映画音楽を取り上げること多い、などその多面的広がりには留まるどころをしないが、何を取り上げても常に完成度の高いものが出来上がる、というのがギドン・クレーメルのすごさである。使用楽器は、1641年製ニコロ・アマティ。



クレメラータ・バルティカ

1997年にギドン・クレーメル(ラトヴィア生れ)が、バルト三国の若手奏者を集めて設立し、芸術監督を務めている。レパートリーはクラシック音楽の一般的なレパートリーの他、現代音楽や他ジャンルに及んでおり、曲により柔軟な編成を採っている。バルト三国各地でのコンサートの他、世界各地でツアーを行ったり、様々な音楽祭に出演したりしている。クレーメル以外の一流アーティストとの共演やツアーにも力を入れている。その中にはヨーヨー・マ、ウラディーミル・アシュケナージ、ミカラ・ベトリ、ザビーネ・マイヤー、エフゲニー・キーンシ、ミハイル・プレトニョフ、マリオ・ブルネロなどがある。

イグデスマン&जू IGUESMAN&JOO

アレクセイ・イグデスマンとリチャード・ヒャンキ・जूの最初の出会いはユーディ・メニューイン・スクールの生徒だった12歳のときである。彼らは1人でも多くの人々にクラシック音楽の魅力に触れてもらいたいという共通の夢を持ち、これまで活動をともにしてきた。

2004年にはウィーンのムジーク・フェラインにおいて「ア・リトル・ナイトメア・ミュージック」を初演。独特のユーモアと実力に裏打ちされた音楽性が融合した彼らの舞台は聴衆を笑いの渦に巻き込み、同時に評論家からも高い評価を得た。

その後も世界各地の劇場、コンサートホール、フェスティバルなどで観衆を楽しませている。また彼らのパフォーマンスに魅せられたギドン・クレーメルやジュリアン・ラクリンなどの世界的名だたる音楽家からもコンサートのゲスト・パフォーマーとして多数招かれている。

2人は「イグデスマン&जू」としての活動以外でも各々演奏家として世界各地で活躍している。

KREMERATA BALTICA